人文学部の
今を伝える

# Agora

人文ニュース<アゴラ>

42巻2号
山形大学人文学部
2010.12.10

"AGORA"とは、ギリシャ語で"広場"という意味です。

人文ニュース 第 42 巻 2 号　http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/index.htm

## なりたい自分が見つかる場所
## ――ようこそ、学びの"アゴラ"へ!
<広場>

☞ **Contents**

学科長インタビュー ……02
教員インタビュー ……04
人文 news 1 ……05
オーストラリア　ケアンズの夏 ……06
留学生のみた日本 ……08
地域づくり特別演習(一) ……09
ガンバレ！就活最前線 ……10
人文 news 2 ……11
卒業生インタビュー ……12

学科長インタビュー

# 「浅きを去って深きにつくは丈夫の心なり」

**福山泰男** 人間文化学科長・教授
（中国古代文学）

――先生のご専門は何ですか？
**福山**：中国古代、2、3世紀、漢魏交代期の文学です。

――三国志で有名な時代ですね。大変な戦乱の時代の文学というのは・・・
**福山**：日本の幕末、あるいは21世紀の現代を連想すればわかりやすいかと思います。社会の激変期・混乱期において人間は、文学によって何を創造したか。それによって人間はどう変わりうるのか。それを、曹操や曹植、女性詩人のテクストを通して考えています。

面白いのは過去の古い文学テクストであっても、現代に通じる示唆に富んでいることです。政治や経済の現象の背後にある、人間の精神、それを文学から学べるのは得難い喜びです。とともに、中国文化、中国人の心性を、歴史の底流のレベルから理解する、そのための研究でもあると自戒しています。

中国・敦煌、鳴沙山にて○○年撮影。遠く未来を見据える青年福山（とラクダ）。

――現在の中国を見ているだけでは本当の理解につながらないということですね。
**福山**：私自身しばしば中国に渡航するのですが、確かに現代と古典の世界の隔たりの大きさに戸惑うことが多いのも事実です。逆に言えば、そのギャップを埋め、中国の過去と未来をつなげる、そして日本と中国を結ぶ、そのビジョンを描くのが自分の仕事の一部だと思っています。

――学生にも深く掘り下げて考える姿勢を学んで欲しいと？
**福山**：「浅きを去って深きにつくは丈夫の心なり」という古訓が、折に触れ思い起こされます。古今・遠近を問わず、人間と多様な文化には、それが何であれ、つねに共通の深い課題・問題がひそんでいると考えられます。深く、また時には縦横無尽に学び、探求し、それを学生が自分の将来の道につなげる、そのための広場（アゴラ）が人間文化学科であればと思っています。

――具体的に、学科の教育にはどんな特色がありますか？
**福山**：うちの学科では、1年次から専門基礎科目にもふれ、2年次からすぐに専修に所属し、演習などの少人数教育に入ります。なので、学生は整備されたカリキュラムに沿って専門分野の知識を蓄積していけます。しかし一方で、人間文化学科では、専門の枠に押しつけるような単純な積み上げ式教育はとっていません。自分の専門以外に、その周辺領域も自由に学べるシステムになっています。

学び考える、創造するというのは試行錯誤の連続です。もし学生が必要と思うならば、所属専修を変更することも可能です。関心のある分野にどんどんチャレンジすることで、新しい自分を発見することもあるでしょう。人間文化学科では、多岐にわたる講義・演習や教員との語らいを通して、学生個々が、自分らしい未来の道を発見することができます。

――何かにこだわり、挑戦し、自分で道を見つけていくというのは当たり前のようで難しいことですね。
**福山**：繰り返しになりますが、知的探求や模索に試行錯誤はつきものです。それでも考えぬく、調べぬくこと、それを学生に期待しています。将来へのビジョンを見据え、自立した個として、自分の学び・研究を一歩一歩、焦らず進めて欲しいと思います。

社会・世界の未来は、ますます、知的・創造的人間、行動的知性を要請しています。すでにできあがった何かに学ぶだけでなく、多様な価値観をもった何かを学ぶ。その意味では、多様なアジア世界を学ぶことの重要性は、私の専門からも訴えたいですね。学生には、欧米はもとより、アジアにも出て行って欲しい。「異文化間コミュニケーションⅠ・Ⅱ」による海外夏期研修プログラム（本誌6・7頁に特集）や、交換留学制度（1年留学しても4年間で卒業できます）など、是非活用して下さい。

――最後に、学生へのメッセージをお願いします。
**福山**：人間文化学科で学んだ学生一人ひとりの意志・行動が人生の全体を彩り、身近な社会、さらには時代・歴史の新たな道を切り開く。事実として、世界の未来は、学生個々の今ある学びの日常の中にあるのです。「天の我が材を生ずるは必ず用有り」李白の詩句を贈りたいです。

中国ハルビンでの研修風景。市内見学する学生・教員。

ブリヤートでの研修風景。バイカル湖畔でのサマーキャンプ

※人文学部のホームページでは、12月より過去の卒業論文題目一覧を掲載しています。過去の卒業生がどれほど個性豊かに、多様な問題に取り組んできたかがわかると思います。ぜひご覧下さい。

学科長
インタビュー

# 魅力ある教育をめざしています

**岩田浩太郎** 法経政策学科長・教授
（日本経済史）

――法経政策学科の魅力を一言でいえば何ですか？
**岩田**：「一つの学科のなかで、社会科学の基本分野を学べること」です。社会の様々な動きをトータルに学びたい、という学生には魅力的な学科だと思います。例えば一般の経済学部や経済学科では法律学は学びにくい。それに対して、本学科では現在、法律政治系２１名、経済経営系２１名、合計４２名の教員から法律学、政治学、経済学、経営学、その他を学ぶことができますし、またさらにどれかを深く学ぶこともできます。

――何故そういう学科をつくったのですか？
**岩田**：現代社会が抱える問題は、例えば環境問題や少子高齢化、貧困や格差の問題をみても、一つの観点だけでは解けない複雑な要因から生じています。これからの時代を生きる若者にとって、社会科学の諸分野を学び政策立案など実践的な力を培うことは大切だと思います。そのため、経済学科と法学科を平成８年度に総合政策科学科に改組し、平成１８年度には諸分野を広く学べる公共政策コースを設けた法経政策学科に改組したのです。

――教育の特徴について教えてください。
**岩田**:学生が選択できる三つのコースを用意しています。法律コース、経済・経営コース、公共政策コースです。『学部案内』では、各コースにそれぞれ「正義を目指す」「人間主役の社会へ」「みんなのために」というキャッチ・フレーズをつけて紹介しています。各コースで学ぶことの意義について高校生にわかりやすくアピールした表現です。学生は２年生になる時にコースを選択するので、入学後１年間はいろいろな授業を受けて自分の関心を捜すことができます。迷っている人にも優しい教育プログラムとなっています。

――特色ある授業についてポイントを紹介してください。
**岩田**：まず、本学科では１年から４年まで段階的に少人数の演習（ゼミナール）に参加できることが特色です。１年生ではスタートアップセミナーで高校までとは異なる「大学で学ぶ姿勢や方法」について身につけます。コース選択をした後の２年生では専門基礎を学ぶ演習に参加します。３年生から卒業までの２年間は自分が選んだ専門のゼミに所属して発表や研究をします。こうした諸段階の演習（ゼミ）を通じて学生は自己の関心をだんだんと深め、課題を見つけて探究することができます。つぎに、地域で実体験をする授業です。「地域づくり特別演習」では、例えば山形県金山町に宿泊し地域の実状を学び地域活性化のプランを町に提案する実習をします。そのほか、地域調査をするゼミは沢山あります。机上の学習だけではなく、地域を歩き現場では何が問題となっているのかを肌で学び解決のための実践力を養うことができます。三つ目は就職対策の授業です。２年生からキャリアガイダンスやキャリア形成論演習、職場で実地研修できるインターンシップ、公務員対策セミナーなどを実施し、学生が早くから就職を考え対応できるようにしています。

――卒業生はどのような分野で活躍していますか？
**岩田**：学生数では本学最多の学科なので、毎年２００名もの学生が巣立っていきます。それだけに、金融・商業・情報・製造・医療福祉・観光サービスなど多分野の企業・法人や地方自治体、学校（教員）、進学（大学院）などと進路は様々です。幹部・中堅職員となって活躍している卒業生が多数います。

○学生には様々なプログラムを提供しております。

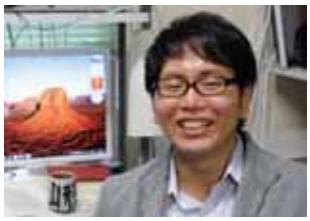
地域社会論の様子

「地域社会論」の授業科目では、学部と協定を結んでいる長井市や蔵王観光協会と連携して、観光振興について、内谷重治長井市市長、岡崎彌平治蔵王観光協会副会長（高見屋社長）にご講演をしていただきました。地域づくり演習（本誌９頁参照）とともに、実践的な地域政策および地域振興に対する考え方を身につけてもらいます。

実践型就職対策講座

学生には、様々な実地体験・講習および公務員対策講座を通して、将来に対する目的意識を高めてもらいます。

# 教員インタビュー



## 山田圭一
**人間文化学科准教授**
**（哲学）**

――先生のご専門を教えてください。
**山田**：哲学です。その中でもとりわけ、「知識の哲学」と呼ばれる分野です。この研究は、「私はそもそも何を知ることができるのだろうか」という問いから出発します。そしてこの問いをさらに進めていくと、そもそも「知っている」ってどういうことなのだろうか、あるいは、確かなものと不確かなものとの線引きはどこにあって何を信じるべきなのだろうか、などといった問いに行きつくことになります。

――もう少し具体的に言うと？
**山田**：たとえば、この問題が哲学的に最も深刻な問題となるのは、他人の心についてです。他人が何を考えて、感じているのかは、自分の場合と違って直接はわかりません。したがって哲学的な懐疑論の立場に立つと、「他人の心は知ることができない」という結論に行きついてしまいます。これは「時には他人の気持ちってわからないよね」という生易しい話ではなくて、「目の前の人間っぽい形をした物体に、そもそも心があるのかどうかさえ分からない」という過激な結論です。

――言われてみれば、確かめようがないですね・・・。
**山田**：こうなると、世界に自分しか存在しないことになってしまって、寂しいですよね（笑）。そこで他人の心を知ることができるための条件を考え直さなくてはいけない、ということになって、「そもそも『心』って一体何なんだろう」「『他人』って一体どういう存在なんだろう」「じゃあ、他人と違う『私』って一体全体何なんだろう」という風に問いがどんどんと広がっていくことになります。このように知識の哲学はあらかじめ決まった探究対象があるわけではないので、いろんなテーマを横断しながら探究していくことができて、そこが欲張りな私には大変面白いところです。

――山田圭一先生が哲学に興味を持ったきっかけは何だったのでしょうか？

このころは、大人になったら大洋ホエールズの四番になると思っていました。

**山田**：元々、「それって、そもそもどういうことなの？」とか「そもそも、そんなこと誰が決めたの？」ということには、やたらとこだわる子どもでした。ただ、このような意味での哲学の萌芽は、多かれ少なかれ、誰もがもっているものなのではないでしょうか。こういう青臭い問いをそのままストレートにぶつけられるという点が、哲学の最大の魅力なのだと私は思っています。

## 金子優子
**法経政策学科教授**
**（行政学）**

――ご担当の専門科目を教えてください
**金子**：行政学と公共政策論です。行政学では、我が国行政の基本的な制度はどのようになっているのか、制度を担うのはどのような人なのか、行政の目的である国民福祉の向上をどの程度果たしているのか、足りない部分を果たすためにどのように行政を変えていくのかについて考えるものです。公共政策論では、まず、「公共」の意味、「政策」とはなにかを考えます。以前は政府のみが「公共」を担う主体と考えられていましたが、現在では国民もその役割を担うようになってきています。次に、政策の策定、実施、評価、評価結果のフィードバックという政策プロセスを理解します。さらに、政策実施主体としての中央政府と地方政府の関係について、事務配分、財源配分など基本的な話をしています。

――現在行っている研究について教えてください。
**金子**：巨額の財政赤字の中、少子高齢化が進み、失業者が増えている中で、国民福祉をより向上させるためには、どのように世の中を変えていったらいいのか、具体的な改革方策につながるような研究を行う必要があると考えています。例えば公益法人というものがあります。いろいろ批判もありますが、行政機関では行えないみんなのためになることを行っている公益法人があるのも確かです。そのような公益法人の活動実態を統計データにより分析し、公益法人の新たな役割を考える研究を実施しています。また、財政難もあり市町村では手が回らない地域における住民サービスに関し、自治会・町内会の役割に期待が高まっています。そのような自治会・町内会の活動を数量化し、地域間や時系列の比較をしようと考えています。

――最後に高校生に一言お願いします。
**金子**：自分の地域に関心を持つのももちろん重要ですが、日本、世界を知ってこそ地域のことが見えてくる、ということもあるので視野を広く持ってください。日本の未来を担うのはあなたたちなのですから。

金子ゼミ（行政学）のゼミ発表会後の記念写真（昨年度）

※人文学部ホームページでは、他にも多くの教員のインタビューを載せています。人文学部トップページより「人文学部教員インタビュー集」をクリックして下さい。

# 山形大学ナスカ研究所の設立に向けて

山形大学人文学部では平成16年より、世界遺産ナスカの地上絵に関する学際的研究を展開しています。当初は、人工衛星画像を用いて、地上絵の分布状況を把握することに努めました。その過程で、新しい地上絵を100点以上も発見しましたが、最近では地上絵付近に分布する土器や石器を分析し、居住地や神殿を発掘することで、当時の人々の生活や価値観を明らかにすることを目指しています。

本年度、この研究は山形大学先進的研究拠点（YU−COE(E)）形成支援に採択されました。そこで、山形大学ナスカ研究所を現地ナスカ市（ペルー共和国）に設立することで、研究を安定的かつ効率的に遂行するとともに、地元ペルーおよび諸外国の調査団との研究交流の拠点にしていきたいと考えています。

遺跡から出土した植物の分析

発掘直後の土器

# 「安達峰一郎」に関する研究・教育拠点づくり

**山形が生んだ世界的法学者「安達峰一郎」の研究プロジェクトが、山形大学都市・地域学研究所「山形偉人再発見プロジェクト」の一環として始まり、法経政策学科教員３名を中心に着実に成果を上げています。所長の人間文化学科松尾剛次教授と中心メンバーである法経政策学科澤田裕治教授にその概要を紹介してもらいます。**

安達峰一郎の肖像画（国際司法裁判所所蔵）

**松尾**：国際法学者の安達峰一郎はどういう人ですか？

**澤田**：安達峰一郎と言っても、おそらく知らない人が多いのではないでしょうか。実は、あの福沢諭吉に勝るとも劣らない世界的偉人なのです。第１次世界大戦前後の国際社会で「世界の良心」と称えられた安達峰一郎は、山形県の山辺町に生まれ、「常設国際司法裁判所」長を務めた唯一の日本人であり、日本が世界に誇る国際法学の権威としてオランダ国葬で送られました。安達は、国家間の紛争を戦争ではなく国際法によって解決する組織作りにその生涯を捧げ、「常設国際司法裁判所」の生みの親の一人となりました。安達がいなかったら、今日の「国際司法裁判所」（現在オランダのハーグにある国連の主要な国際司法機関）もなかったかもしれません。

**松尾**：安達峰一郎研究会の意義と発足の経緯をご説明ください。

**澤田**：安達の果たした功績はこれほど大きい。だが福沢諭吉は知らない人はいないが安達峰一郎を知る人は少ない。安達が一般に知られず教科書にすら載っていないのは何とも不思議です。それには、博士の生まれ故郷の山形大学が安達の学術的功績を発掘できなかったことにも一因があるように思います。このような現状を打開すべく、法経政策学科の教員が集まり 2008 年に「安達峰一郎研究会」が発足したのです。研究会は、山形大学を安達峰一郎の研究拠点とし、学術研究を通じて安達の功績を広く世間に知らせることを目標に掲げています。この研究会のメンバーは、澤田裕治（法制史・比較法制度史・民法）、松本邦彦（政治学・外交史）、丸山政己（国際法）です。隔月に定例研究会を開くとともに、公開研究会でその成果を発表してプロジェクトを着実に前進させています（『山形学研究７』参照）。このプロジェクトは、平成２１年度・２２年度の学長裁量経費に採択され全学的な支援を頂戴し、また安達峰一郎記念財団、安達峰一郎博士顕彰会、山辺町をはじめ顕彰会理事安達尚宏氏の協力支援を受け、文字通り「地域に根差して世界を目指す」活動を行っています。幸い、昨年から、安達峰一郎にスポットが当てられ、その普遍的な意義が再評価される機運が高まっています。(1)2009 年の生誕 140 周年・没後 75 周年の記念行事、(2) 小和田恆氏の国際司法裁判所長就任（2 月）と安達の生家訪問、(3)NHK の大型企画プロジェクト・ジャパンのプロローグ（4 月）では、非戦の制度化・世界平和の組織化に尽力した安達の思想と行動が高く評価され、番組全体の展開を導く中心人物の一人として位置づけられていたことなどがそれです。

澤田裕治教授

松尾剛次教授

**松尾**：今回、澤田裕治先生に、「安達峰一郎」に関する研究教育拠点づくりについて説明いただきました。今後の展望として、研究会を中心とする地道な学術研究を継続するとともに、山形大学都市・地域学研究所は、近い将来、本プロジェクト研究に深い理解を示された小和田恆所長をハーグに訪問したいと思っています。現地では、安達峰一郎に関係する諸機関、関係者の確認・聞き取り調査、資料の所在・残存状況について予備調査を早く実施したいと念願しています。ご理解とご協力をお願いします。

# オーストラリア ケアンズの夏

## ～異文化間コミュニケーションIを終えて～

2010年8月21日から9月4日まで、人文学部の学生25名が
アーウィンマーク先生と嶋田珠巳先生の引率のもと、
オーストラリア・ケアンズにて、異文化コミュニケーションIを行いました。
研修では、毎日のホームステイを通して現地の生活を体験しました。
さらにジェイムスクック大学（JCU）の語学センターで英語の授業と、
ケアンズの文化や自然を知るいくつかのツアーに参加しました。

成田空港発

市内観光のひとコマ。
ダン先生と、最初の日。

| day | am | pm |
|---|---|---|
| 1 | ケアンズ空港着。ホストファミリーと対面 | ホストファミリーとの活動 |
| 2 | JCUキャンパスツアー、英語プレースメントテスト | ケアンズ市内観光 |
| 3 | 英語授業 | |
| 4 | 観光（キュランダ） | |
| 5 | 英語授業 | |

| day | am | pm |
|---|---|---|
| 6 | 英語授業 | 観光（ケアンズトロピカルズー） |
| 7/8 | ホストファミリーとの活動 | |
| 9 | 英語授業 | |
| 10 | 観光（グレートバリアリーフ、グリーン島） | |

| day | am | pm |
|---|---|---|
| 11 | 英語授業 | |
| 12 | 英語授業 | 観光（エスプラナード・ラグーン） |
| 13 | 英語授業、BBQ用の買い物、BBQランチ、修了式 | |
| 14 | ケアンズ空港集合 | ケアンズ空港発 |

スカイレールから見渡す熱帯雨林、そしてケアンズの景観は最高でした。

キュランダ行きのトロッコで向い合せに乗った家族。休暇で家族旅行に来ているのだそう。日本のことを紹介したり写真を見せ合ったりしてとても楽しい時間を過ごせました!
（人間文化学科1年　齋藤美咲）

## キュランダ観光

キュランダでは鉄道やゴンドラ（スカイレール）に乗り、太古から存在する雄大な原生林を見てきました。見渡す限り険しい崖や鬱蒼とした森林が広がっていて、まるでオーストラリア大陸を覆い尽くしているかのようでした。しかし、この原生林は大陸のわずか0.26%を占めているに過ぎず、改めて自然の壮大さに驚きました。キュランダの原生林は多種多様な生物の生息地でもあって、ここにしか生息していない生物もいるそうです。生態系の観点からしても、自然は大切で守っていくべき物なのだな、と思いました。
（法経政策学科2年　山方敬太）

## ～JCUでの授業と交流～

ジェイムス・クック大学の語学センターでは、
合計34時間の英語の授業を受けました。
すべて英語で行われる授業はとても新鮮で、充実していました。
先生方がとても親切で、よかった！

文法は分かっていても使うのは難しいもの。説明をきいてしっかり理解。

年齢や学校、そして国を越えてさまざまな人と仲良くなりました!
（人間文化学科1年　宍戸里沙）

JCU国際交流ランチにて

## JCUでの最後の日

最後の授業では、現地のフルーツを買い出し、
グループごとにそのチョイスを競います。

ラスティーズ・マーケットにて。英語を使って質問、うまくいきました。

最後の授業でのコンペティション。
現地のフルーツをいかにアピールできるか、英語力が問われます。
盛りつけも腕のみせどころ。

## 思い出いっぱいのケアンズとお別れ。2週間はあっという間でした。

そして、修了式。一人ひとりダン先生から修了証を受け取りました。
修了式を終えて、喜びもひとしお。

成田空港着

## ～ホームステイ、そして英語でコミュニケーション!～

ホームステイの受け入れ先は、お父さん、お母さん、6歳と9歳の女の子（写真）の4人家族でした。家族と過ごす時間を大切にしていて、夕飯は必ず家族そろって食事していました。私のお気に入りの夕食は、ラム肉のサラダ。食べ終わった後もすぐ部屋に戻らず、家族みんなで会話を楽しみましたが、その時間で早口言葉や最近の流行など、様々なことを教えてもらいました。また週末には一緒に寿司を作るなど、日本の文化を伝えたりもしました。

「オーストラリアの天使」
ルビィとエラは私たちにとって英語の先生でありよき理解者でもありました。英語の発音を教えてくれたり、ママのことばを解説してくれたりして、とても助かりました。

肝心の英語でのコミュニケーションでは、はじめ自分の考えを言葉にすることができずに苦労しました。正確な文章でなければ相手に思いが伝わらないのではないかという不安があり、単語が思い浮かばなかったりしたからです。しかし会話をしていく中で、文法や単語が間違っているかどうかではなく、イントネーションやアクセントの方に問題があることに気がつきました。たとえば aggressive は、第二音節のアクセントを強調して発音し直したら意味が伝わりました。

また、たとえ相手の質問の意味が分からなくても、聞き返すことで理解できるようになります。「Feng Shui も日本の思想のひとつだよね？」と聞かれ、はじめ何のことかわからなかったのですが、聞き返すうちに "Any luck change with direction or color." と説明してくれました。そう！Feng Shui は風水のことだったんです。

無理に難しい単語を使わなくても、またちょっとくらい文法が間違っても、積極的に話し、相手に伝えようとすることが大切だということを学びました。
（人間文化学科3年　齋藤愛）

## グレートバリアリーフ観光。グリーン島へ

「世界一のサンゴ礁」・・・グリーン島、そして周りにはグレートバリアリーフが広がっています。こんなに綺麗な海は今まで見たことがありません！！
（人間文化学科2年　土屋このみ）

シュノーケリングを楽しむ
水中ではいろいろな魚と一期一会の出会いがありました。
エイやカメに出会えたときは感激!

## 研修を終えて

「2週間くらいの語学研修で英語が話せるようになるはずがない」これは、私がケアンズに行く前に幾度も周囲から言われ、また自分自身も感じていた事です。

しかし実際ケアンズに行ってみると、周囲が英語だらけの中で一定期間過ごすことは英語学習において非常に意味があると実感しました。"name" という普段よく耳にするような単語すら、聞き取れずに何度も聞き返したり、バスでは目的地の "university" ですらなかなか通じなかったりと様々な場面で苦戦しました。しかし授業とは異なる、型にはまってない日常の英語が飛び交う環境は、とても刺激的でした。また、カタコトでも文法が間違っていても、身振り手振り混じりでも、最終的に外国人に自分の意思を伝えられた経験は、英語でのコミュニケーションへの自信を与えてくれました。

また2週間の研修をとおして、私の専攻である文化人類学的なテーマについても考えさせられました。異なる人種、異なる言語、異なる環境、異なる宗教、異なる交通法規（ケアンズの道路はラウンドアバウトがあったり、青の歩行者信号の時間が非常に短かったりと日本人の感覚では驚きの連続です）、様々な「異なる」ものだらけの中で、それでも根本的に「共通」する "何か" を体感しました。例えばそれは同じTV番組を見て笑いを共有するような、ささいなことです。しかし、そのささいなことの積み重ねの中に差異を乗り越える、"人間" としての根源的なものを感じました。
（人間文化学科3年　鈴木ひな）

# 留学生のみた日本 ～留学生実地見学旅行　in 会津若松＆日光

人文学部では、毎年、外国人留学生を対象に、山形県近隣の産業や史跡などを巡り、地域の歴史や・民俗にふれる実地見学旅行を実施しています。今年度は、6月12日㈯と13日㈰の2日間、会津若松の鶴ヶ城・飯森山、大内宿、日光の東照宮、華厳の滝などを見学しました。

日光東照宮前にて。メンバーは留学生26名と教職員5名

## 文化のつながり―東照宮陽明門のグリ紋

とくに印象深かったのは、日光東照宮の陽明門。12 本の柱は「グリ紋」と呼ばれる渦巻き文様が彫られているが、1本だけが他の柱とは逆に下向きになっている点です。それは「完璧なものが必ずいいというわけではない」という考えが含まれていると、ガイドさんが教えてくれました。それを聞いた私は、中国にある「金無足赤、人無完人」（完璧なものは存在しない。疵や誤りがないことを期待しない）ということわざを思い出しました。中国と日本の文化のつながりに気づいた私は、グリ紋の柱についても、またそのことわざについてもより深く理解できるようになりました。
桑　博（中国・北京林業大学　短期留学生）

この旅行を通して、日本の自然が作り出す華麗な造形美と、近世日本の建築技術の高さに感嘆するとともに、白虎隊の若者達が生まれ故郷を守るため必死に戦う精神にも尊敬の意を持ちました。これ以外、古い文化遺産をどのような方法で維持・管理するのかも大変参考になるところが多かったです。
戴　靖（大学院生・中国）

旅館では、温泉に入り、夕食をし、そしてまた温泉に入りました。温泉は本当に好きになりました。翌日朝食後、日光に向かいました。華厳の滝はやはり、現場で見たり、聞いたり、感じたりしないと、その本当の大きさや美しさが分かりません。
Jimmy Lam（オランダ・ライデン大学　短期留学生）

楽しかった初めての団体旅行は、ガイドさんの「皆さん、おはようございます」と一緒に始まりました。旅行中のバスの中はいつもガイドさんの声で埋められていて、彼女の驚くべき記憶力と疲れを知らない体力には本当にびっくりしました。※写真はガイドさんではなく私です。
文　正完（韓国・全南大学　短期留学生）

印象に残ったのは、福島の会津にある「大内宿」での発見で、自然環境の保護と利用についてです。環境汚染が進んでいないので、堰を流れる水がきれいでした。果物や飲み物を冷やしていることからそのことが分かります。まるで映画「となりのトトロ」で、おばあさんがきゅうりを冷やしているシーンが現実になったようでした。また、冷蔵庫が必要ないので地球にやさしい、エコな生活が実現しています。
黄　美嘉　（台湾・銘傳大学　短期留学生）

大内宿遠望

私にとって、一番インパクトを強く与えたのは、大内宿でした。大内宿は昔の日本の建物をよく残しています。現在の日本の建築はだいたい和室だけではなく、洋室もあるようになりました。しかし、大内宿は今までもキレイな状態に維持され、日本の伝統的町並みを守っています。本当に素晴らしいと思いました。
周　静琦(学部研究生・中国)

# 地域づくり特別演習（一）

**人文学部では、各分野の教育および研究活動を推進させることに加え、学生諸君には、在学中の早い時期から地域づくりに関する知識と能力を磨いてもらうことを目標としております。今回は、地域づくり特別演習を通じて、最上地域の学生の実習に取り組んでいる法経政策学科准教授の下平裕之先生（経済学史）にインタビューをさせていただきました。**

――地域づくり特別演習（一）とはどのようなものですか？

**下平**：「地域づくり特別演習（一）」は、平成 17 年度より人文学部共通科目として開設された、山形県金山町における現地実習を中心とする夏季集中講義です。この演習は金山町と協力して、学生の教育と同時に地域の活性化に貢献するという特徴を持っています。今年度は9月6～ 10 日の日程で、旧羽州街道沿いにあり金山町の南の玄関口でもある、上台（うわだい）地区をフィールドとして、9名の学生が参加しました。

――演習のスケジュールについてお聞かせください。

**下平**：1 日目は地域づくりに関する基礎的知識を習得するための講習、2日目と3日目に1泊2日の現地実習を行うようスケジュールが組まれています。まず 6 日の事前講習では、地域づくりに必要な資源の発見・活用方法や実習で使うワークショップの手法、さらに上台地区の特徴などを学びました。

――今回の現地実習の内容としてはどのようなものでしたか？

**下平**：これを踏まえて、7～8日の1泊2日で現地実習を行いました。実習では地域資源の分類表を用い、特に旧羽州街道の歴史的資源を中心に地区の方に案内してもらい資源発見のためのフィールドワークを行いました。フィールドワークではまず地区の方が保存活動に力を入れている旧羽州街道を実際に歩き、その歴史的意義を説明してもらいました。続いて地区内の歴史的建造物や産業について見学し、特に鯉が主要産品であったことから各家庭に大小の養殖用の池が設けられ、それが独自の景観づくりに役立っていることなどを学びました。

フィールドワーク風景

――フィールドワークで調べたものは、地域にどう役立てられようとしていますか？

**下平**：フィールドワークで調べた結果は、地域資源の一覧表と、それを活用した上台地区の活性化プランとして学生自身の手でまとめられました。そしてその成果を7日夜に行われた上台地区の方々との意見交換会で発表しました。意見交換会では、「旧羽州街道の歴史的景観を生かし時代劇の撮影地として誘致する」、「山の幸を活用した体験型イベントを行う」といった学生による地域資源とその活用法が提案され、これに関し地域の方々との意見交換が行われました。

**下平**：8 日には前日の成果を踏まえ、上台地区に関する補足調査を行った後、地域資源マップ作りを行いました。地域資源マップとはそれぞれの地域資源がどこにあるのかを示す地図のことですが、前日に調査した地域資源やその活用策と組み合わせることにより、地域資源の位置と活用法を視覚的に理解できるよう工夫したものです。なおこれらの資料は全て金山町に寄贈され、今後の地域づくりに役立ててもらうようになっています。

学生による討論の様子と作成された地域資源マップ

――学生にとって、また地域の方々にとって、どのような成果をもたらすのでしょうか？

**下平**：まず学生にとっては、地域づくりに関する知識や技法を単に学ぶだけでなく、それを金山町というフィールドで実践することにより、知識を現場で適用する際の問題点、グループワークでの協同関係、相手に自分たちの調査結果をわかりやすく伝えるために工夫すべき点などを体験することができます。また地域の方々にとっては、そこにある地域資源を学生の目を通して改めて確認する機会を得るとともに、それらの活用法について学生たちと意見交換を行うことを通じて、地域づくりのための新たな可能性を探ることができます。学生のアイデアは必ずしも全て実現可能な物ではありませんが、それが地域の方々がより実践的な計画を作る上での手がかりとなるならば、十分な役割を果たしたということになるでしょう。

地域の方々との意見交換会

金山町の視察の様子

――最後に、先生から学生の方へのメッセージをお聞かせください。

**下平**：最後になりましたが、この演習は学生の皆さんが主役です。皆さんの行動とアイデアが、地域の未来を変えるかもしれません。積極的な参加をお待ちしています。

# ガンバレ!就活最前線

**3年生はいよいよ就活まっただ中というところ。一休みしたくなることもあるでしょう。**
**そんな時には、美味しいものでも食べて、頑張る自分にごほうびを！4年生だって、まだまだチャンスはある！**
**1・2年生は先輩たちの頑張りに、未来の自分を重ねてください！**

みなさんの就職活動を取り巻く環境は、相変わらず厳しいの一言です。

例年にない猛暑の中をリクルート・スーツ姿で走り回るみなさんを見ていると、思わず、ガンバレ！と声をかけたくなります（心の中では本当に声をかけています）。

会社の人事担当の人や自治体で働く先輩などに話を聞くと、山大生、特に人文の学生の評判はとても良いのです。真面目で熱心、と褒められます。ただ、公務員志望ならまず本気で試験勉強をして欲しいし、会社勤めで一番大切なのは、やる気とコミュニケーション能力だと言います。

大変です。『真面目でよく出来て、しかもいつも元気で笑顔がいっぱいでいなさい』なんて言われても。そんな自分を創り続けた日には、体の中にズシーンとストレスを溜めそうです。

ですから、たまには息抜きも必要。誰かに愚痴をこぼすことも大切です。友達でも、先生でも、カウンセラーの人にでも。大きく深呼吸をしたら、自分のリズムで、へこまず、落ち込まず、スイッチを切り替えながら、希望の実現をめざしましょう。

阿部宏慈 進路指導委員会委員長
人間文化学科教授

インターンシップマナー講座のようす。
丁寧なお辞儀は社会人への第一歩!

## 人文学部キャリア支援プログラム

### ～満足いく進路実現のために～

**コース選択（専門学問領域を決める）**

**（セミナー関係）**
- ◆1・2年次向け 就職セミナー
- ◆新聞の読み方セミナー
- ◆公務員試験対策説明会
- ◆教員採用試験対策説明会

**（授業科目）**
- ◆インターンシップ
- ◆キャリア・ガイダンス
- ◆キャリア形成論演習

**（セミナー関係）**
- ◆1・2年次向け 就職セミナー
- ◆職務適性テスト
- ◆公務員試験模擬試験
- ◆教員採用試験模擬試験

**（授業科目）**
- ◆インターンシップ
- ◆教育実習

**（セミナー関係）**
- ◆就職セミナー（年5回）

4月
- ◆進路・就職ガイダンス

6月
- ◆職務適性テスト

10月
- ◆職業仕事研究
- ◆就職筆記模擬試験
- ◆実践型就職対策講座
- ◆山形県・市・県警合同説明会
- ◆教職セミナー
- ◆教員採用試験模擬試験

11月
- ◆ビジネスマナー講座

1月
- ◆面接トレーニング
- ◆山形大学合同企業説明会

2月
- ◆公務員対策模擬試験

今年の実践型就職対策講座。
グループワークのようす

**（セミナー関係）**
- ◆山形大学合同企業説明会
- ◆ビジネス文書作成講座
- ◆教員採用試験　面接・模擬授業対策セミナー
- ◆教員採用試験 論作文対策セミナー
- ◆教員採用試験対策 セミナー

※◆印は地域教育文化学部主催のセミナーですが、人人文学部生も参加出来ます

| 目標 1年次 | 目標 2年次 | 目標 3年次 | 目標 4年次 |
|---|---|---|---|
| 進路を考えよう! | 希望を明確化しよう! | 夢の実現に向かって、いよいよ実践! | 進路を決め、社会人の準備をしよう! |

# 人文学部国際学術講演会「アジアの発展ードイツの発展」

7月7日（水）、フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使を講師にお迎えし、本学教職員、学生、大学院生、一般の方を含め約１５０名の参加の下「アジアの発展ードイツの発展」と題した国際学術講演会が開催されました。

今回の講演は、山形県ＥＵ協会及び駐日ドイツ大使館の計らいにより実現しました。

講演で、シュタンツェル大使は、日本やドイツは大きなソフト・パワーを持つ国であり、世界全体の平和と自由のために責任をもって行動すべきであるという話をされました。さらに東アジアにおいて「東アジア共同体」が成立する可能性はあると思うかという学生の質問に対して、逆に、日中韓で相互依存の関係はどの程度成立しているのか、市民レベルの運動があるのか、東アジア共同体を構想し、リードしていく政治家はいるのか、と質問され、議論が交わされました。

ランチミーティング。大使を囲んで

学生たちにとっては、外国の人から見た場合の国際関係における日本の位置について考えさせられた貴重な時間となりました。

# ハルビン工業大学人文社会学院との学術交流シンポジウム

9月10日（金）から13日（月）の4日間、渡邊洋一人文学部長以下教員 7 名と通訳の大学院生 1 名が中国のハルビン工業大学人文社会学院を訪問し、学術交流を行ってきました。これは、昨年 10 月に同学院の楊濤院長および付麗副院長が山形大学人文学部を訪問された際に提案され、その後お互いに企画を練って来たものです。

今回の学術交流のメイン・イベントは、11 日に開催された学術交流シンポジウムで、人文社会学院の楊濤院長、人文学部の渡邊学部長を含めそれぞれの大学から 7 名ずつの教員が研究発表を行いました。お互いのことばの壁を克服するために、日中両言語に翻訳した発表予稿集や中国語の発表スライドを作成したりと、できる限りの準備を持って臨み、有意義な学術交流を行うことができました。

また、人文社会学院からの「大学生の自殺問題」に関する講演の要請にもとづき、11 日の夕べには、渡邊学部長が「日本における大学生の自殺」と題した講演を行いました。集まった 100 名近くのハルビン工業大学の教員・学生からは多くの質問があり、盛り上がった講演会となりました。

ハルビン工業大学博物館にて

学術交流シンポジウムの様子

# 人文学部FD研修

人文学部では、教育方法の改善のために、毎年独自の活動を行っています。

9月14日シンポジウムで実践報告をするパネリスト

昨年は、授業の成績評価をめぐって、学生も交えた意見交換会を開きました。まず学生の中から選ばれた三名の方の報告を聞き、さらにお二人の先生方の実践の報告を受けて、熱い討論を繰り広げました。成績は何を基準に付けるべきか。「努力や熱意を評価してください」という声に対して「設定した目標への到達度の他に評価の基準はないでしょう？」という意見が出たり、なかなかスリリングな議論でした。

今年度も 7 月 14 日には、若手の先生方と、アドバイザーの仕事のあり方について、さまざまな意見交換をおこないました。9 月 14 日には、今年度始まったばかりの導入科目「スタートアップ・セミナー」をテーマに、理想的な導入教育のありかたや少人数教室、一年生を対象とした授業のありかたについて論戦が繰り広げられました。

# 卒業生インタビュー

各方面で活躍する人文学部の卒業生に、学生時代の思い出、進路決定から就職までの道のりを語っていただきます。
今回は、フレッシュな社会人1年目の田中さん。学生時代から幅広く何にでも挑戦するアクティブさが印象的でした。

## カンボジアでの現地研修が学生時代の一番の思い出！学生時代の全ての経験が役立っていると感じます。

＜職場の長崎造船所をバックに＞

平成21年度
法経政策学科卒業
**田中 百合**
三菱重工業株式会社
長崎造船所に勤務

――現在の仕事は何ですか？

インド向け発電所機器の輸出営業です。今インドは電力不足の問題を抱えているため、様々な場所で発電所建設プロジェクトが進行しています。私は主に、輸出に必要な手続きを行ったり、インドのお客様や商社と連絡を取る仕事をしています。

――大学で学んだことは何ですか？

大学では国際金融のゼミに所属していました。財務的な知識はどこでも役立ちますし、ゼミ発表などを通して、相手へ論理的にわかりやすく伝える力が身についたと感じております。これは仕事でも本当に重要です。

また、もともと国際協力活動に関心があったため、山形県内での NPO の活動に参加したり、外国出身児童の学習支援ボランティア活動を行っていました。自分たちで活動を計画&実行していく中で、PDCA サイクルを学ぶことができたと思います。

――学生時代一番の思い出は？

沢山あって迷いますが、一番大きいのはカンボジアで活動する国際協力 NPO でインターンシップをしたことです。もともと新興国の開発や国際協力に関心があり、国内の活動だけでは我慢できず…大学を休学して約半年間程、現地でインターンをしていました。現地の大学生や子どもたちなど、本当に多くの出会いがあって楽しかったです。

また、休みの日には周辺国（タイやラオスなど）に行ったり、少数民族の村へ遊びに行ったりしました。言葉も文化も全く違いましたが、一生懸命何かを伝えようとすると相手もなんとなくわかってくれるものなのですね（笑）。水浴びしたり虫をごちそうになったり、ハンモックで寝たり…毎日かなり楽しかったです！

大学で思い出深いのは、毎日サークルやバイトの友人と飲み歩いていたことでしょうか…。

――進路決定の決め手は？

開発途上国に関わる仕事がずっとしたいと思っていました。そのため国際協力関係機関や、新興国のシェアを拡大しているメーカーなどを受けていました。今の会社は開発途上国のインフラ整備に携わることができ、女性でも海外出張や赴任のチャンスがあるため、ここに決めました。

――どのような進路支援を受けましたか？

就職課でたまにエントリーシートを見てもらったり、進路相談員の方に相談に行きました。人文学部主催の面接練習講座にも参加しました。また就職活動で東京や仙台に行った際は、そこで開催されている企業セミナーにも積極的に参加しました。

――今の職場で学生生活がどのように役立ちましたか？

大学の課題やゼミ合宿準備で養った根気、アルバイトやインターンシップ、ボランティア活動を通して養われた、幅広い世代や国籍の方とのコミュニケーション力、サークルで養ったお酒の強さなど（営業はお酒の席が多いので、意外とこの力は重要だったりします）…本当に全ての経験が役立っているなと感じます。

また事務仕事だと特に、英語や Word/Excel/PowerPoint を使いこなす力が重要だと感じています。学生時代にある程度は勉強しましたが、もっと応用できる力を身につけておくとよかったと思います。今も日々勉強です。

――後輩へのメッセージ

就職活動の面接やエントリーシートでは様々な質問をされますが、結局は①自分のやりたいことは何で、②そのために学生時代何をやってきて、③それをふまえて、会社で何をしていきたいのか？を聞きたいのだと思います。これらが会社の方向性と合っていれば採用されるし、違っていれば不採用になると感じました。就職活動は今年も厳しい状況が続いていると思いますが、この三点をじっくり考えてみると、一貫性のある回答ができると思います。あとは強気に！自分の大学から採用された人がいないとしても、自分がパイオニアになってやるくらいの勢いで面接に行って良いと思います。

人文ニュース　第 42 巻　2 号

○発行／山形大学人文学部　○編集／人文学部広報委員会　○発行日／平成 22 年 12 月 10 日
〒990-8560　山形市小白川町 1-4-12　電話 023-628-4203（総務チーム）
http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/index.htm　E-mail : jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※本学部の最新情報については、ホームページをご覧ください。山形大学人文学部 http://www-h.yamagata-u.ac.jp
※昨年度で退職・転出された教職員、今年度の新任教職員のご挨拶は順次ホームページに掲載する予定です。